

第4回 小金井市産業振興プラン策定委員会

日時：令和7年10月27日（月）

午後6時00分から

場所：小金井市役所第二庁舎8階801会議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題
新プランにおける方針と事業の位置づけについて
- 3 その他
- 4 閉会

【配布資料】

- ・会議次第
- ・新プランにおける方針と事業の位置づけ（資料1）

新プランにおける方針と事業の位置づけ

1. 新プランの方針

○新プランにおいても、現プランの6つの方針は踏襲する。

○その理由は、方針が関連し合い重複する部分があるものの、個々の方針の考え方は柔軟に読み解くことができ、時々必要に応じて臨機応変に事業を立ち上げることができる利点があるからです。

方針	考え方（現プランより引用）
① 住みたい・働きたい・訪 れたいと思うような魅力 を磨く	「まちにブランド感を感じる」という方向性を踏まえ、まちの魅力を生み出し、磨き上げることで、小金井市に住みたい、市内で働きたい、遊んだり学んだりするために訪れたいと思うようなまちをつくっていきます。まちの魅力に引き寄せられ、多くの人が集うことがまちの活気につながります。
② 暮らしていて楽しい、訪 れて楽しいと思える魅力 を数多く生み出す	「暮らしていて楽しい」という方向性を踏まえ、市内各所に魅力を感じる場所や機会を生み出し、暮らすことや訪れることが楽しいと思えるまちをつくっていきます。それら場所や機会が至る所にあり、近くに住み、働く人が楽しむことに加えて、まちを回遊して楽しむ人も増えていくことで活気が生まれていきます。
③ 魅力を生み出し、発信す る人と出会い、増やす	「まちを盛り上げる人が多い」という方向性を踏まえ、魅力づくりに関わる意欲のある事業者を増やすとともに、まちの魅力を生み出すことや、それを誰かに伝えることに興味のある人を掘り起こし、育てることで、主体を増やしていきます。そして、そのような人たちによって新たな魅力が生み出され、活気あるまちになっていきます。
④ 魅力を生み出す人をつな げ、応援する人もつなげ る	「人と人との関係が深い」という方向性を踏まえ、事業者や活動する市民をつなげ、連携することで相乗効果を生み出します。また、魅力を生み出す人とそれを楽しむ人たちとの関係も深めることで、魅力が地域に定着するようにします。様々な立場の人たちの関係が育まれることで徐々に支え合うコミュニティとなり、活気づくりへとつながります。
⑤ 誰もが安心して出かけら れる環境をつくる	「安心して出かけられる」という方向性を踏まえ、都市整備部門や警察、商店会等と連携し、高齢者はもとより、子どもと一緒に人にとっても、安心して出かけられる歩行環境や買物環境を整えていきます。誰もが安心して魅力を楽しむ環境になることで、多くの人が市内で買物を楽しみ、活気が生まれていきます。
⑥ 事業・活動を継続してい くための仕組みをつくる	「事業・活動を継続していくための仕組み」は、地域の産業的基礎の活性化・持続可能性にとって重要です。そこで、産業振興の土台となる方向性として位置づけ、商業、工業、農業、観光を問わず、市内における事業が継続されるよう支援を行い、まちの活気の土台となる産業的基礎を確立します。

2. 事業の位置づけの考え方

■現プランの事業の位置づけ

○現プランでは「継続していく既存事業」と「今後の取組に関するアイデア」という2つの区分で事業を位置づけている。

■現プランにおける事業の位置づけ（例）

方針①住みたい・働きたい・訪れたいと思うような魅力を磨く

- ▶ 継続していく既存事業⇒シティプロモーションの展開
創業・起業による東小金井駅周辺のエリアブランディング
- ▶ 今後の取組に関するアイデア⇒市内農産物のブランド化
特徴的な事業者や活動の周知

○現プランにおいて「実際に実行する事業」が位置づけられていない背景には、それ以前のプランが5年間のアクションプランとして策定され、計画期間中の事業を明確に位置付けた結果、取組が硬直化したことがある。

■新プランの事業の位置づけ

○新プランの検討プロセスにおいては次の階層で事業を位置づける。

■新プランにおける事業の位置づけ（案）

- 継続していく既存事業
- 今後実施を検討する事業

参考：現プランにおける事業の位置づけ

- 継続していく既存事業
- 今後の取組に関するアイデア

3. 新プランにおける方針別事業（案）

①住みたい・働きたい・訪れたいと思うような魅力を磨く

「まちにブランド感を感じること」という方向性を踏まえ、まちの魅力を生み出し、磨き上げることで、小金井市に住みたい、市内で働きたい、遊んだり学んだりするために訪れたいと思うようなまちをつくっていきます。まちの魅力に引き寄せられ、多くの人が集うことがまちの活気につながります。

■継続していく既存事業

- ・シティプロモーションの展開
- ・観光まちおこし協会によるウェブサイト「まるん通信」の継続運営の促進【新】
- ・創業・起業による東小金井駅周辺のエリアブランディング
- ・ふるさと納税制度を活用した市内産品等のPR【新】
⇒提案事業「小金井産はちみつのブランド化」はここに包含する。（現状も返礼品として活用されている。）

■今後実施を検討する事業

- ・空き店舗を活用した出店機会の提供と開業支援

課題＝商店街における空き店舗の対策と商店の連担性の維持

目的＝空き店舗と新規出店希望者のマッチングを図る

概要＝空き店舗が発生した場合には、所有者と商店会にて合意の上で商店会として期間限定での出店希望者を募りながら、店舗所有者と新規出店者とのマッチングを図り、新規店舗の獲得を目指す。

②暮らしていて楽しい、訪れて楽しいと思える魅力を数多く生み出す

「暮らしていて楽しいこと」という方向性を踏まえ、市内各所に魅力を感じる場所や機会を生み出し、暮らすことや訪れることが楽しいと思えるまちをつくっていきます。それら場所や機会が至る所にあり、近くに住み、働く人が楽しむことに加えて、まちを回遊して楽しむ人も増えていくことで活気が生まれていきます。

■継続していく既存事業

- ・地域でのイベントに対する支援
- ・駅前広場を活用したショーケース的イベントの実施【新】
⇒ヒアリングにて駅から遠い立地の「小金井らしい商店」への誘客と街中での回遊誘導を目的として、各駅の駅前広場でのショーケース的イベントを実施する。
- ・販わい創出・買物支援等の目的に資する市立公園の利活用
- ・プラットフォームとしての道草市の運用促進【新】
⇒提案事業「公園等オープンスペースでの植木の販売会」は連携できるとよい。また、「小金井産はちみつのブランド化」も同様。
- ・オープンスペース活用事業（観光まちおこし協会委託事業）【新】

■今後実施を検討する事業

- ・（仮称）暮らし環境向上アクション提案事業

課題＝やる気のある事業者や販わい創出に関心の高い市民の支援の拡充

目的＝事業者・工業者・市民を問わず本プランの目的に資する事業を企画し実施する意欲・スキル・ノウハウ・行動力・人脈のあるプレイヤーの発掘と、その行動による市民生活の質の向上

概要＝本プランの目的である「地域の付加価値の向上」「市民が豊かに暮らすことのできる環境形成」「まちの活性化」などに資する事業を、産学住を問わず幅広く募り助成する。助成にあたっては目的に対する「やる気」と「アクションの有効性」を指標として応募企画案を審査する。

助成期間終了後には成果報告会を実施し、その場における評価を踏まえて事業展開のスプリングボードとしていただく機会をつくる。

- ・空き店舗を活用した出店機会の提供と開業支援

課題＝空き店舗の住宅化による商店の連担性が損なわれることの回避

目的＝マンションへの建替時にも1階はテナントとして整備することをルール化する

概要＝地区計画や建築協定などの都市計画・建築行政における制度適用により、土地利用や建物用途は制限することができる。ただし、当該制度の適用にあたっては、適用されるエリアの住民の合意に基づく住民発意に端を発する必要があるため、市の事業である「まなびあい出前講座」を利用して、希望する商店会・町会を対象に制度の勉強会を実施する。

③魅力を生み出し、発信する人と出会い、増やす

「まちを盛り上げる人が多いこと」という方向性を踏まえ、魅力づくりに関わる意欲のある事業者を増やすとともに、まちの魅力を生み出すことや、それを誰かに伝えることに関心のある人を掘り起こし、育てることで、主体を増やしていきます。そして、そのような人たちによって新たな魅力が生み出され、活気あるまちになっていきます。

■継続していく既存事業

- ・小金井事業創造センター（K0-T0）
⇒現状を踏まえて「コウカシタ・ヒガコインキュベーション」として更新。
- ・となりまちプロジェクト（3市魅力向上プロジェクト）
- ・観光まちおこし協会による夜のまろん倶楽部の継続実施の促進【新】
⇒観光まちおこし協会によるプレイヤー発掘・ネットワーキング事業。現プランの「おもしろいことをしたい人がつながる機会の創出」を実体化した事業として位置づける。

■今後実施を検討する事業

- ・K0-T0・VP 入居者の市内定着に向けたニーズ調査（都市計画施策への準備）

課題＝創業支援事業に参加する事業者の市内定着の低さ
目的＝オフィス確保に向けた方策立案のためのニーズ調査
概要＝K0-T0 と農工大・多摩小金井ベンチャーポートの入居者の独立後の市外流出は課題となっている。用途規制上オフィスが整備しにくいといった現状があるものの、特に K0-T0 については大きなオフィスを必要としているとは思えない。適切で効果的な対策を講じるためにも、両施設入居者の独立後の意向をリサーチし、市内定着の難しさの原因を把握し、その原因を除去する対策を検討する。

- ・新しいタイプの創造産業の誘導

課題＝郊外住宅地においては従来の製造業の誘導が困難
目的＝工場を必要としない新しいタイプの製造業や IT 系やアニメ等の創造産業の誘致
概要＝市内に K0-T0 と農工大・多摩小金井ベンチャーポートが立地している優位性を活かしつつ、郊外住宅地におけるマンションというストックを活用し、小規模でも生産性の高いデジタルファブリケーションや AI を活用した ICT 事業者、その他創造産業を誘致する方策を検討する。

- ・アクティブシニアの活躍につなげる機会づくり

課題＝市内在住のスキル・ノウハウのあるアクティブシニアを活かす
目的＝活躍の場につなげるためのステップとなる入口の提供
概要＝小金井市には都内企業に勤務し、ビジネス経験が豊かな高齢者が多数居住しています。そのような高齢者がアクティブシニアとなり、市内の様々な事業をサポートするとともに、自ら事業を興すようなアクションをしていくことで市内産業の風景は変わります。そのステップとして、イベントの担い手が不足している商店会などを中心として市内の賑わい創出事業への参画機会を発信し、マッチングを図ります。

④魅力を生み出す人をつなげ、応援する人もつなげる

「人と人との関係が深いこと」という方向性を踏まえ、事業者や活動する市民をつなげ、連携することで相乗効果を生み出します。また、魅力を生み出す人とそれを楽しむ人たちとの関係も深めることで、魅力が地域に定着するようにします。様々な立場の人たちの関係が育まれることで徐々に支え合うコミュニティとなり、活気づくりへとつながります。

■継続していく既存事業

- ・わくわく都民農園こがねい
- ・観光まちおこし協会によるこがねいコモンズの継続実施の促進
- ・観光まちおこし協会による夜のまろん倶楽部の継続実施の促進【再掲】
⇒現プランの「今後の取組に関するアイデア」にある「様々な主体が気軽に参加できる情報交換の場づくり」として事業化。

■今後実施を検討する事業

- ・若者のまちへの関心を醸成する機会づくり

課題＝高等学校が多数立地するなか高校生を消費者・担い手として呼び込めていない
目的＝まちづくり活動を通じた若者のシビックプライドの醸成
概要＝市内には都立・私立の高等学校が立地し、専門学校や大学もある。多数の若者が市内で学んでいる状況を踏まえ、それら学校の生徒が商店街や賑わいづくり事業に参画する機会をつくることで、小金井というまちにかかわるなかで関心を深めるよう促す。結果、大人になって小金井を選ぶ、ないしは小金井で買物をするといった行動につなげる。

⑤誰もが安心して出かけられる環境をつくる

「安心して出かけられること」という方向性を踏まえ、都市整備部門や警察、商店会等と連携し、高齢者はもとより、子どもと一緒にの人にとっても、安心して出かけられる歩行環境や買物環境を整えていきます。誰もが安心して魅力を楽しむ環境になることで、多くの人が市内で買物を楽しみ、活気が生まれていきます。

■継続していく既存事業

- ・LINE を用いた道路情報の収集
- ・多様な交通手段を複合化した持続可能な交通体系の検討【新】
⇒地域公共交通計画と連動し、CoCo バス（コミュニティバス）だけでなく、デマンド交通や、自転車・電動スクーターなどのパーソナルモビリティも含めた、多様な交通手段を組み合わせた合理的な移動支援のあり方を検討する。

■今後実施を検討する事業

- ・空き店舗を活用した駐輪場の提供

課題＝駐輪場がないため、自転車を利用した商店街利用が難しい

目的＝商店街主導で駐輪場を経営し、集客を図る

概要＝空き店舗が発生した場合には所有者と協議の上で店舗フロアを活用した駐輪場を経営してもらうよう促すことで、商店街における駐輪場を確保する。店舗所有者はビジネスになり、駐輪場を確保することにより商店街は来街者を獲得できる。さらに駐輪場利用者のクーポンを発行することで一般利用者を商店街の顧客につなげることも可能となる。

⑥事業・活動を継続していくための仕組みをつくる

「事業・活動を継続していくための仕組み」は、地域の産業的基礎の活性化・持続可能性にとって重要で
す。そこで、産業振興の土台となる方向性として位置づけ、商業、工業、農業、観光を問わず、市内にお
ける事業が継続されるよう支援を行い、まちの活気の土台となる産業的基礎を確立します。

■継続していく既存事業

- ・小口融資の斡旋等の支援事業 等

■今後実施を検討する事業

- ・地域産業の担い手育成のための補助事業

課題＝商業・工業を問わず適切な事業承継がなされる必要がある

目的＝若手を中心とした経営の担い手となる人材の育成・創出

概要＝地域産業の持続可能性を高めるため、市内事業者の若手を対象として技術力・
生産性・接客等の幅広いスキルならびに経営に対する見識などを高めるため、
社内研修の実施や社外での研修機会への参加に対して補助・助成する制度を立
ち上げる。